

CONTENTS

特集

中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」答申

巻頭言 8 地方教育行政の改善に向けて——有馬朗人

答申について 10 「今後の地方教育行政の在り方について」の答申に当たって——根本二郎

11 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」答申について——大臣官房政策課

座談会 16 今後の地方教育行政の在り方——(出席者)河野重男／安齋省一／松井石根／船津春美／(司会)高 為重

論文 28 地方分権時代の学校と教育委員会——石原多賀子

エッセイ 32 中教審の審議に参加して——金剛育子

事例紹介① 34 住民主体ですすめる教育改革——川崎市教育委員会

事例紹介② 37 通学区区域の弾力化——東京都葛飾区教育委員会

事例紹介③ 40 生涯学習による町づくり——秋田県山本郡琴丘町教育委員会

解説 42 地方教育行政制度の概要——大臣官房政策課

47 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」答申を受けた文部省の対応——大臣官房政策課、教育助成局財務課

カラー

1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ねて——高知県立牧野植物園(高知県)

4 天然記念物歳時記——男女群島

表2 名作シリーズ——キリスト降誕

表3 文化財紹介——入江貝塚

6 私と教育、私として——陳 建一

50 焦点——文教施策

62 中教審ニュース

68 都道府県発——●教育・学術・文化・スポーツニュース

宮城県塩竈市、栃木県大田原市、兵庫県、沖縄県

70 現代スポーツあれこれ——グラウンド・ゴルフ

72 行ってみよう やってみよう——国立淡路青年の家

74 海外教育ニュース

76 文学のふるさと——小さな雪の町の物語

78 私の選んだ一冊——本間三和子

79 インフォメーション

82 鑑賞席

84 編集後記

中

国の学校の先生は「老師」といいます。教師はとても威厳のある存在で、子どもたちは常に緊張の糸が張りつめていようような感じになります。それに比べると、日本の学校の先生と生徒はとても距離が近いといえます。それは良い面もありますが、必要以上になれなれしく、友達感覚になってしまうのは行き過ぎだとも思います。少なくとも私にとって先生とは尊い存在ですから、私自身ある程度の距離を置いて接していたつもりです。

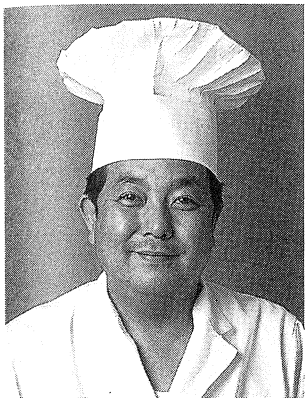
私も年に数回ですが、料理学校の講師として講義をすることがあります。教える生徒たちは高校を卒業したくらいの年齢ですから、もう一人前の大人です。しかし、中にはあいさつがきちんとできない生徒もいますし、自分の感情をコントロールできない、いわゆる「きれる」という現象を感じさせるような生徒もいます。最近では、あいさつに限らず、生活の基本的なルールを教えるという本来家庭ですべき教育までもが学校に任されてしまうという状況を考えると、今の学校の先生たちの苦勞がわかるような気がします。

私は料理人の家庭に育ち、大学を卒業後、なんのためらいもなく料理の道へ進みました。しかし、この世界はとても厳しい上に、私の場合、料理の世界では一目置かれる存在である父親の後を継ぐ二代目ということで、様々なプレッシャーがありました。ましてや父と同じ調理場で働くことで、周りの目も一段と厳しく感じました。若いころは

私と教育、私としつけ

育てる喜び

陳 建一



ちん・けんいち 東京都出身。日本に初めて四川料理を紹介しテレビの料理番組でもおなじみだった故・陳建民（ちん・けんみん）氏の長男。大学を卒業後、父建民のもとで料理修行。現在、赤坂四川飯店グループ社長としてテレビ、雑誌等でも幅広く活動中。



それこそ朝から晩まで油まみれになりながら働き、偉大な父に少しでも追いつこうと努力していましたが、なかなか追いつくことはできません。苦しんだ私は、父と同じ味を求めるより自分の味を出そうとすることで、そのプレッシャーから解放されました。

今の私は父の後を継ぎ、店を預かっていますが、コックという職業の仕事場である調理場は、小さな学校にたとえることができると思います。さしずめ私は校長先生とでもいえるでしょうか。私が調理場にはいると、コックたちに緊張が走ります。学校でも校長先生の前で子どもたちが緊張するのと同じです。調理場にはコックとしての一年生もいれば、ベテランの上級生もいます。そうした教え子たちの中に入って私は普段は調理場で料理をしています。私自身もまだまだ勉強することがたくさんありますし、料理人として白紙の状態から出発した教え子たちを、料理人としてはもちろん、一人の人間としても立派に育てあげるといって大きな仕事もあります。

修行を重ねた私の教え子たちは、店に残って頑張る人もいれば、私の店を「卒業」して自分の店を出したり、ホテルなどの料理長となって活躍している人もいます。教え子たちの活躍は私にとっても大きな喜びであるとともに、それを励みにお互いがさらに向上していくことが一番の楽しみです。

(談)

特集 ●21世紀を見据えた 海外子女・ 帰国子女教育

●巻頭言

これからの海外子女・
帰国子女教育
——猪口邦子

●座談会

二一世紀を見据えた
海外子女・帰国子女教育
——(出席者)池上久雄/平野吉三/斎藤三郎
小平桂子/アネット/司倉 泉 紳一郎

●論文

折田一人/児島邦宏

●エッセイ

宇田麻衣子

●体験記

シンガポール日本人学校ほか

記念館めぐり◆ゆかりの地を訪ねて

京都府立堂本印象美術館

私と教育、私として

ケント・ギルバート

都道府県発

◆教育・学術・文化・スポーツニュース

秋田県・静岡県・三重県・鹿児島県

編集後記

▽今年の暦も残り少なくなり、まもなくお盆やゴールデンウィークと同様に、年末の帰省ラッシュのニュースが報じられることと思います。近年は分散化が進んだとはいえ、高速道路の渋滞、空港やターミナル駅の混雑ぶりは今年も変わらないでしょう。その一方で静まり返る都心のオフィス街や官庁街は、つかの間の休息となります。

▽さて、平成一〇年は読者の皆様にとってどんな一年だったでしょうか。教育に関していえば、「六大改革」の一つとして位置づけられている「教育改革」、その具体的な課題やスケジュールを取りまとめた「教育改革プログラム」の二回目の改訂が行われたのが四月でした。また、中央教育審議会から六月と九月に答申が出されたのははじめ、教育課程審議会は

か各審議会からも答申が出されました。さらに、中高一貫教育制度導入のための法改正や所要の施策の推進等、様々な取組が行われた一年でした。

▽今月は九月に出された中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」答申を特集として取り上げました。答申全文については既に本誌一〇月臨時増刊号で「幼児期からの心の教育の在り方について」の答申とともに掲載しておりますが、本特集ではそのポイントはもとより、答申を受けた文部省の今後の対応などについてもふれていますので、ぜひ御一読ください。

(K・M)

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んだ感想、御意見等をお寄せください。

●「読者からのたより」投稿規定

①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈

※文章を一部手直しさせていただくことがあります。

送り先

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2
文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部
※電子メールでも受け付けております。

宛先名「jiho@monbu.go.jp」

●「文部時報読者アンケート」

文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。
宛先名「jiho@monbu.go.jp」

コンピュータネットワークを利用した文教行政の広報

文部省では、我が国の文教施策等を広く皆様に紹介するため、インターネットを利用して情報を提供しています。

インターネットアドレス:

<http://www.monbu.go.jp/>(半角入力)

●著作権所有——文部省©

●発行所——株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成10年12月10日印刷

平成10年12月10日発行

定価610円(本体581円)(〒84円)

年間購読料7,320円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。